

日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標	<p>①プロジェクト目標：ルサカ州チョングウェ郡において、結核感染者、結核/HIV重複感染者に対する患者発見及び治療成績が改善強化される。</p> <p>②達成度：患者発見に必要な結核疑い者のスクリーニング数はベースラインに比べ4倍に増加している（ベースライン900名、1年次1,354名、2年次2,702名、3年次3,607名）。これは、過去3年間続けてきた医療従事者への能力強化研修及びプロジェクトで供与した結核遺伝子検査システム（GeneXpert）が効果的に活用されている成果だと考えられる。また、治療成績について、治療中の患者脱落率は低く2018年は1.1%と低く維持され、悪化していない。プロジェクト開始時には脱落率が約5%であったことから、治療脱落率が大幅に改善した。プロジェクトの実施により多くの患者を発見し、治療を完了させることができたといえる。ザンビアでは2万人以上の結核患者が放置され感染を広めていると言われていたが、本プロジェクトの3年間の活動によりその1%を発見、ほぼ全員が治療を終えたことになる。</p> <p>【指標1】郡内の結核診断施設（郡病院、チョングウェRHC、カナカントパRHC）においてスクリーニングされる結核疑い者数が30%増加する 2015年900名、2016年1,354名、2017年2,702名、2018年3,607名（うち陽性者数200名、陽性率5.5%）</p> <p>【指標2】郡内の結核治療脱落率が維持され、悪化しない（2015年時点で5%） （2016年4%、2017年2.8%、2018年1.1%）</p>
(2) 事業内容	<p>事業の活動は概ね遅れなく進んだ。以下に事業開始後12カ月間に実施した活動を説明する。</p> <p>(ア) 結核ボランティアの育成と活動支援</p> <p>●機材供与 4月、結核ボランティアの普及啓発活動のためメガフォンを供与した。 7月、検体搬送用のクーラーボックスを結核ボランティアに支給した。 8月、カナカントパHCに自転車7台を供与した。カナカントパ保健センターが管理に責任をもち、普段は結核ボランティア宅で保管することを合意した。</p> <p>●結核ボランティアへのリフレッシュャー研修 3月から6月にかけて、結核ボランティア（48名）を対象としたドラマパフォーマンスのリフレッシュャー研修と、結核・HIV/AIDSの最新の知識を補うリフレッシュャー研修を実施した。前者では、街頭インタビューを通じて住民が結核をどのように誤認しているか分析し、それに基づいて啓発劇の台本を練るなど実践的な内容であった。後者は、最新版の結核マニュアルをもとに、幣団体が改訂を支援した結核ボランティア育成マニュアル及びハンドブックを活用したものだ。</p> <p>●結核ボランティア活動計画作成 2017年12月に結核担当看護師の監督の下で、保健医療施設ごと（チョングウェ郡病院、チョングウェRHC、ングウェレレRHC、カナカントパRHC）の結核ボランティアの活動計画会議を開催し、年間活動計画を作成した。</p> <p>●世界結核デーイベント開催 3月24日、世界結核デーを記念し、チョングウェ郡ミーンウッドにおいて記念式典に参加した。式典ではGeneXperの贈呈式、結核ボランティアによる伝</p>

統的なダンスと寸劇をとおして地域住民に対して結核のキーメッセージを伝える啓発活動を行った。また、メディアを通じて情報発信を行った。チョングウェ地域住民や、チョングウェ郡長、ルサカ州保健局長も出席し、参加者は結核蔓延をなくすために一致団結していくことを表明した。●HIV 検査カウンセリング促進デー、世界エイズデーイベント開催支援

8月15日、HIV 検査カウンセリング促進デーと、11月30日、世界エイズデーを記念し、チョングウェ郡の主催する記念式典に参加した。式典では、プロジェクトで育成した結核ボランティアが混成チームを作って、演劇を披露し、地域住民への啓発活動を行った。

●結核ボランティア月例会議

結核担当看護師の監督の下で、保健医療施設ごと（チョングウェ郡病院、チョングウェ RHC、ングウェレレ RHC、カナカンタパ RHC）の結核ボランティアの活動状況を報告する月例会議を開催した。

●結核ボランティア講師養成研修

5月、プロジェクト4サイトの結核担当看護師、抗 HIV 治療（ART）担当看護師（8名）を含む21名が結核ボランティア講師養成研修をうけた。研修プログラムの作成にあたり、郡保健局結核担当を積極的に関与させ郡保健局の主体性を醸成できるよう心掛けた。研修では、知識の補充よりもプレゼンテーション能力の向上に重きが置かれ、グループワークをリードする技術を実践的に学んだ。参加者全員が5月28日-6月8日に開催された結核ボランティアリフレッシャー研修（結核・HIV/AIDS 編）でも講師をつとめ、スキルを反復的に演習した。

●結核ボランティアハンドブックの印刷

弊会が、地域開発母子保健省、ルサカ郡保健局と協力して2014年6月に作成したハンドブックについて、2017年12月から2018年1月に、保健省国家結核対策課を中心に改訂を行った。冊子は、保健省が全国配布する。

●啓発教材の住民への配布

結核リーフレットを、啓発活動に参加した住民に対して配布した。（2018年の配布数は8,213枚）

●結核ボランティアによる患者教育

結核・HIV/AIDS リフレッシャー研修を受講することで得た知識を活用して、結核ボランティアが新規登録患者に対する教育を実施した。

●患者家庭訪問による治療支援

自転車による患者家庭訪問を実施しており、治療継続支援を継続した。

●結核疑い者に対する受診促進

結核ボランティアが新規登録結核患者の家庭訪問を実施し、結核疑い者に対する受診促進を行った。

●地域における啓発活動

1～2年次に育成したチョングウェ郡病院、チョングウェ郡 RHC、ングウェレレ RHC、カナカンタパ RHC の結核ボランティア各12名（合計48名）で啓発活動を実施した。3月以降、遠隔地の医療施設の要望をうけ、従来の4施設区域のみならず、遠隔地や結核患者の多い周辺地域でも重点的に啓発を行っている。

●結核担当看護師及びボランティアグループへの監督指導

弊会スタッフは、結核ボランティアの活動が円滑に進むように、結核担当看護師及びボランティアグループの月次ミーティングに同席し、活動のモニタリングを行うほか、活動上の問題に対処できるよう、助言・指導した。

（イ）結核ボランティアの自立支援

●所得向上リフレッシャー研修

郡保健局及び小規模ビジネス専門家と研修について話し合い、8月に所得向

上リフレッシュ研修を実施した。結核ボランティア 48 名、結核外来看護師 8 名が参加した。

(ウ) 看護師による結核患者、結核/HIV 重複感染患者管理能力強化

●郡病院及び 3RHC の結核担当看護師、ART 担当看護師に対する監督指導
結核対策と HIV 対策の連携を強化するため、結核担当看護師、ART 担当看護師に対し、適宜監督指導を実施した。

●結核担当部署と ART 担当部署の連携強化

保健医療施設の結核担当看護師と ART 担当看護師の連携を強化し、結核と HIV の重複感染患者に対して、結核治療薬服薬中に ART を開始できるように促した。

●新規登録結核患者の HIV スクリーニング強化

新規に結核と診断された患者は、結核担当看護師及び結核ボランティアが、HIV カウンセリング担当者と連携し、HIV について教育し、HIV のカウンセリングとスクリーニングを受けるように促した。

(エ) 結核菌検査室の能力強化

●機材供与

3 月 7 日に機材を購入、24 日の贈与式を経て、3 月 20 日、21 日にングウェレ RHC に GeneXpert を供与・設置した。初期破損していた無停電電源装置 (Uninterruptible Power Supply、UPS) を交換し現在稼働中である。

●結核菌検査研修

ザンビアでは、現在結核菌検査法として主流であるチールネルゼン法から蛍光染色法への変更の途上にあるため、ガイドラインを確認し、7 月にチョングウェ郡病院、チョングウェ RHC、カナカンタパ RHC、ングウェレ RHC の検査技師を対象に蛍光染色法の研修を実施した。参加者数は 17 名。プロジェクトで GeneXpert を供与したチョングウェ郡病院とングウェレ RHC にて OJT を実施した。研修計画は、保健省国家結核対策課、ザンビア大学教育病院 (UTH)、胸部疾患研究所 (GDL)、レヴィー・ムワナワサ病院 (Levy Hospital) と作成し、研修講師を分担した。

●ザンビア大学教育病院 (UTH) が実施する外部精度評価 (EQA)

最新の報告によると、2018 年第 1、2 四半期 (1-6 月) の EQA のエラー件数が 0 と報告された。昨年よりも技術は向上していることが伺われる。

(オ) X 線撮影に係る能力強化

●X 線読影研修

10 月に専門家を派遣し、医師、准医師に対し X 線読影研修を実施し 15 名の医療従事者が参加した。パネルテストの結果が 10.1 から 16.5 (30 点満点) に上昇したことから、読影スキルの向上が確認された。

●X 線読影会

郡内の医師、准医師に対し、X 線読影会を実施した (3 年次 5 回実施)。

●X 線撮影研修

7 月に南アフリカより X 線撮影の専門家を招聘し、放射線技師 4 名に対し X 線撮影研修を実施した。

キ) 記録/報告の強化

●データのとりまとめ

検査台帳と治療台帳のクロスチェックを重点的に実施した。またこれまでの記録を取りまとめており、11 月、国際結核・肺疾患予防連合 (UNION) 学会総会で発表した (発表に係る経費は自己負担)。

●チョングウェ郡四半期会議

	<p>4月、8月、12月に第2、3四半期の結核レビュー会議を実施した。23施設の担当者及び郡保健局の担当者が参加して実施された。</p> <p>●ルサカ州結核レビュー会議</p> <p>11月、ルサカ州結核レビュー会議を実施した。8郡のコーディネーターが参加した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>成果1： 事業実施地において、結核、HIV/AIDSの啓発活動と結核患者及び結核/HIV重複感染患者への支援</p> <p>【指標1】 郡内の結核診断施設（郡病院、チョングウェ RHC、カナカンタパ RHC）においてスクリーニングされる結核疑い者数が、30%増加する （2015年900名、2016年1,354名、2017年2,702名、2018年3,607名（うち陽性者数200名、陽性率5.5%））</p> <p>【指標2】 郡内の結核治療脱落率が維持され、悪化しない（2015年時点で5%） （2018年は1.1%）</p> <p>【指標3】 郡内で新規登録された結核患者の85%が、HIVスクリーニングを受ける（2015年時点で76%） 新規登録された結核患者のうちHIVスクリーニングを受けた者は、2018年第1～3四半期では、276名中271名（98.2%）だった。 *これは、プロジェクトの介入により保健局の結核部門とHIV部門との連携（主に看護師）が強化されたことを意味する。以前は結核の診断を受けた患者の情報がHIV部門に共有されないことも多く、重複感染者が見逃されていたが、両部門の看護師への研修、記録・報告の強化、記録用紙の刷新などにより連携が強化された。</p> <p>【指標4】 郡内で結核治療を開始した結核/HIV重複感染患者の60%が結核治療期間中にARTを開始する。（2015年時点で38%） HIVスクリーニングで陽性と分かった結核患者のうち結核治療期間中にARTを開始した数は、2018年第1～3四半期では123名中123名だった（100%）。 *結核部門とHIV部門の連携強化により、重複感染者の結核治療状況だけでなく、HIVの治療状況まで把握できた。また、HIVと結核の治療を同時に行うことにより、患者はクリニックに通う回数が減り交通費や時間の効率化ができた。貧困率の高いザンビアにおいては非常に患者にとってのメリットが大きく、スクリーニング率の向上につながったといえる。</p> <p>【指標5】 結核ボランティアが年間50件の患者家庭訪問を実施する。 結核ボランティアによる患者家庭への訪問数は、2017年では延べ2,507回、2018年では延べ3,336回だった。 *結核ボランティアによる家庭訪問は、患者にとって、長期にわたる多量の服薬・副作用を乗り越える大きな動機となる。治療脱落率が大幅に改善したことは、ボランティアの家庭訪問による動機づけによるところも大きいと考えられる。</p> <p>【指標6】 結核ボランティアによる啓発活動に、各サイト年間500名が参加する。結核ボランティアによる啓発活動には2016年は3,573名、2017年は15,755名、2018年は96,878名参加した。（啓発活動には、地域での啓発集会の参加者数と、個別訪問による啓発数を含む） *これは結核ボランティアによる地道な地域保健活動の結果である。彼らは日々の活動に様々な意義を見出している。例えば、結核以外の病気で困っている人から相談を受けることで、頼れる存在になった、地域の信頼を得たと感じる。また、患者さんの症状が改善したり、知識や意識が向上して、スティグマが減ったりするのを肌で感じ、活動継続の動機付けとなる。</p>

	<p>踊りや音楽の得意な者は、自分の長所を生かし、楽しんで活動に参加している。これらのことから、結核ボランティアの活動が個人、患者、地域へポジティブな影響を与えていることが分かる。</p> <p>成果 2 : 事業実施地において、結核診断及び記録報告が強化される。</p> <p>【指標 1】 郡病院、チョングウェ RHC、カナカントパ RHC の臨床検査室における外部精度管理 (EQA) のメジャーエラーがゼロになる。 最新の報告では、2018 年第 1, 2 四半期 (1-6 月) の EQA のエラー件数 0 と報告された。 * 結核菌陽性を陰性と誤認し、陰性を陽性と間違えるメジャーエラーがゼロということは、検査技師の技術があがり、実施した研修の成果が着実にあがっていることを意味する。これにより見逃される結核患者がなくなり、また、治療の経過を正し測ることができた。また、研修に参加したことで、自信がついたと答えた検査技師も多い。</p> <p>【指標 2】 医師、准医師に対する X 線読影パネルテストの結果が、参加者平均 10 点以上 (30 点満点) になる。 2018 年 10 月、X 線撮影研修時に実施したパネルテストではベースライン値 10.1 から 16.5 に上昇した。(2016 年は 10.17 から 13.40 に上昇、2017 年は 8.3 から 14.8 に上昇した。) * ザンビアでは、卒後、研修などで X 線読影を学ぶ機会がほとんどなく、知識や技術を磨くことができない。そのような医療技術者に貴重な機会を提供し、一般の医師が必要とする知識については定着したといえる。</p> <p>【指標 3】 郡病院、3RHC が郡保健局に提出する四半期報告書が締め切り後 7 日以内に 100% 提出される。 2018 年第 3 四半期まで、郡病院、3RHC が郡保健局に提出する四半期報告書が締め切り後 7 日以内に 100% 提出された。</p>
(4) 持続発展性	<p>(1) チョングウェ郡への引継ぎ 8 月、チョングウェ郡の保健局長が異動になり、新しく Dr. Kabungo がチョングウェ郡の陣頭指揮をとっている。日本で JICA 研修に参加したこともあり、友好的である。活動の引継ぎでは、次年度の予算申請にプロジェクト活動を含んでもらうため、活動の予算書を提出した。それらが全て予算申請に組み込まれたという報告を受けた。また、結核ボランティアが実際に地域活動を実施するために、車両、文具、記録用紙等を郡保健局に寄贈した。プロジェクト終了時に開催された結核ボランティア年次総会では、郡保健局を代表し結核コーディネーターが、プロジェクト活動後の結核ボランティア活動の展望を結核ボランティアの前で説明し、意見交換を行った。さらに、現場レベルでの実際のノウハウやチャレンジを学ぶため、幣団体の過去のプロジェクトサイトであるルサカ郡内の保健医療施設スタッフや結核ボランティアとの意見交換会を設けた。</p> <p>(2) ングウェレレ RHC に供与した X 線機器に一部不具合が生じたため、自己資金により X 線管球を交換したが、2019 年 2 月現在、X 線機器は順調に稼働している。</p>